



聖霊降臨の主日 (ヨハネ 14:15-16,23b-26)

聖霊は欠けている私たちを満たしてくださる

聖霊降臨の主日を迎えました。「弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。」(14・26) イエスの言葉を思い起こさせ、その意味を理解させてくださる聖霊を、私たちが豊かに受けましょう。

長崎教区司祭の黙想会が火曜日から始まります。黙想会ですからもちろん各自が何かの学びを得てそれを小教区に持ち帰るお恵みの時なのですが、私はそのほかにも、今まで欠けていた何かを埋めていただくひとときでもあると思っています。

もう20年以上も前のことですが、黙想会に行くと一人の先輩から同じことを質問され、ほとほと困っておりました。当時私は浦上教会の助任だったのですが、その先輩神父様が食事の席で相席になり、「あんた、今どこか？」と聞いてくるのです。

黙想会はざっと百人が集まる大所帯で、朝昼晩、ふだん顔を合わせることはない先輩方に混じって食事を共にします。大きな食堂で食べる割には案外同じ席を好むもので、窓のある席、壁を背にした席など、先輩方が選ぶ席は結構決まっておりました。

若い司祭たちは通路の混み合う席とか、残り物の席を選んで先輩の席が減らないように気を配って座っておりました。その中で、「おう。あんた、今どこか？」と聞かれたのです。当然私は「浦上の助任です」と答え、その場はそれで終わりました。

次の年も私は浦上の助任でしたが、黙想会での食事中に例の先輩から同じ質問をされたのです。「おう。あんた、今どこか？」私は笑顔で、「はい。浦上の助任をしております」と答えました。その年も、その先輩との会話はそれだけでした。さらに翌年、同じ先輩が三度同じことを聞いてくるのです。「おう。あんた、今どこか？」

「仏の顔も三度まで」と言います。私はつい、言わなくてもいいことをその先輩に言ってしまいました。「別に、誰でもいいでしょ？ どうせ興味ないでしょ！」これで話が終われば、名前を覚えてくれない先輩司祭と、生意気な後輩司祭の話で終わりなのですが、これには続きがあるのです。

その次の年、私は浦上教会の助任として五年目でしたが、またあの先輩が食事の時に近寄ってきて声を掛けるではありませんか。「このやろう」と心の中では思っていたのですが、その先輩は私にこう言いました。「おう。浦上も五年目か。そろそろどこかの主任やな。」

私はなぜかもらい泣きしそうになりまして、「ありがとうございます」と答えてあとは何を話したか、頭が真っ白になりました。それからこの先輩は私を見ると、「おう。田平はどうか？」と正確に私の任地と赴任年数を踏まえた声かけをしてくれるようになったのです。

三年同じ質問をされて頭にきて「どうせ興味ないくせに」と言った私には、何か足りなかったのだと思います。先輩は本当に私に興味がありません。けれども四年目には、「何が足りなかったのか」を見極め、見事に私の期待を良い意味で裏切ってくださいました。黙想会で、欠けている何かを埋めていただいた先輩は、四年目には私にその姿で私にも欠けていたものを理解させてくださったのだと思います。

今日、聖霊降臨を祝っていますが、聖霊は私たちキリスト者に、人間として欠けているものを満たしてくださるお方ではないか。そう考えました。私たちは福音書を通してイエスの言葉、態度に触れ、それを学び、生活に生かそうとしています。けれども人間的な欠陥があって、イエスの言葉は分かるけれども、実行できないときがあり、理想と現実の隔たりに肩を落とすのです。

「一日に七回あなたに対して罪を犯しても、七回、『悔い改めます』と言ってあなたのところに来るなら、赦してやりなさい。」（ルカ 17・4）このイエスの言葉は十分理解できますが、同じことができない。その欠けたところを埋めてくださるのは何でしょうか。

もし、欠けたところを埋めるのが自分自身の努力だとしたら、ある人は努力で埋め合わせて高い目標に到達するでしょうが、ある人はとてもそのようなことはできないかも知れません。そして、たどり着いた人はたどり着けない人を見下すという愚かなことをするかもしれない。

もしこれが、人間の努力ではなく、もっと大きな愛、大きな力が人間の欠けたところを満たしてくれるのだとしたら、私たちは互いに喜び合うことができるでしょう。その大きな愛、大きな力とは、言うまでもなく「弁護者である聖霊」のことです。

あらためて、欠けたところを埋めることができたとすればそれは「弁護者である聖霊」のおかげであり、埋めることのできない人に私たちは「いつくしみ」のまなざしを注ぐ。聖霊が働いてわたしたちの欠けたところを埋めてくださるのであれば、私たちは皆互いに喜び合うことができるのです。

聖霊は、私たちがイエスの言葉に聞き従おうとするとき、欠けているところを埋めて、満たしてくださるお方だと考えました。そうしてイエスの言葉と行いをことごとく理解し、自分のものにできるのです。

イエスの言葉とわざは、すでに完全に示されましたが、これを十分に理解するためには、聖霊の注ぎが私たちに必要なのです。「隣人を自分のように愛しなさい」この言葉がどうして身につかないのか。聖霊の注ぎが必要だからです。

欠けているところを埋め、満たしてくださる聖霊の照らしがなければ、イエスの言葉とわざを生きたものにできないのです。心から、聖霊の照らしを願い、欠けている私を満たしてくださるよう祈りましょう。